

5 土木遺産

那珂川および流域には水利開発のための堰や用水路、那珂川に架かる橋など過去に建造された土木遺産がある。那珂川に関わる土木遺産として、日本土木学会による『日本の近代土木遺産—現存する重要な土木構造物 2000 選』および栃木県、茨城県の土木遺産に選定されているものを紹介する。

(1) 那須野原開拓関連の土木遺産

① ^{なすすい}那須疏水取水施設

那須野原（那須野ヶ原）を潤す那須疏水は、那珂川の水を取り入れている。明治 18 年（1885）、国の直轄工事として延長約 16.3 km の那須疏水本幹水路が、同年から翌年にかけて第一から第四分水路が完成し、豊かな水を那須野原にもたらした。疏水取入口は 3 度変わり、現在は第四次取入口である西岩崎頭首工から取水している。

疏水の土木遺産としては、(元)第一次取水隧道—石ポータル、(旧)第二次取水路隧道、水門—石造（切石布積^{きりいしぬのづみ}）、(旧)第三次取入口水門—石水門（切石布積）、疏水橋—石積アーチがある。これらの旧取水施設と疏水橋は、国の重要文化財に指定されている。



疏水取入口全景（西岩崎頭首工）



第一次、第三次取入口水門



第二次取入口からの導水路および水門、隧道口

疏水取入口是那珂川の流れの変化で明治 38 年（1905）第一次取入口から 200m 上流に移され、導水路を経て隧道に入った（第二次取入口）。大正 4 年（1915）には旧（第一次取入口）取入口にもどった（第三次取入口）。



疏水橋—石積アーチ（水路）

図 2-28 那須疏水の土木遺産（那須塩原市 平成 16 年 6 月）

② その他

疏水のほか、那須野原開拓関連の土木遺産として、^{ひきぬま} 墓沼用水取水口、新・旧木ノ俣用水取水口、巻川用水取水口、箒川取水堰（箒川発電所）が挙げられる。

(2) 橋

① ^{ばんすい} 晩翠橋

わが国に2例しかない鋼ブレースドリブ・アーチ（バランスト，上路）である。

最初の橋は明治17年（1884）10月，新陸羽街道の一環として架けられた。現在のものは5代目で，平成14年（2002）には日本土木学会選奨土木遺産に選定された。

長さ：127.87m，幅員：9.0m
所在地：栃木県那須塩原市・那須町
竣工年：昭和7年（1932）

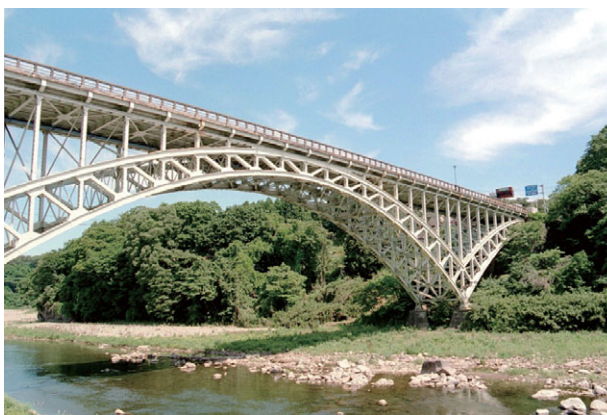


図 2-29 晩翠橋（那須塩原市・那須町）

② ^{すいふぼし} 水府橋

大正9年（1920）に開通した国道6号はかつて水戸市下市の^{ことぶきぼし} 寿橋を経由していた。下市は城下町特有のカギ型道路が多くて狭く，さらに水郡，常磐両線の踏切を横断するため，幹線道路としての機能を十分に果たせなかった。そこで新しく水戸城の堀跡を利用して枝川（ひたちなか市）と水戸駅を結ぶ道路と水府橋が建設された。現在は水戸市街の混雑，渋滞を避けて，新しく水戸市街を迂回する国道6号バイパスが建設されたことから，一般県道市毛・水戸線の橋として利用されている。

なお，この水府橋は那珂川洪水対策工事に伴い，新しい橋に付け替えられることになっている。



図 2-30 水府橋（水戸市）

鋼ワーレントラス（弧状曲弦，下路）
長さ：172.1m，幅員：5.5+4.0m
所在地：茨城県水戸市
竣工年：昭和7年（1932）